此の度簡易水道組合を結成して、日掛貯金を起し、新農山漁村特別助成事業による国の補助を仰いで、総工費壱百五十万円を以って、谷川建設によって昭和三十五年八月二十日着工、南谷山本谷の水源池より良質の水を引きて、昭和三十五年十月十日完成した。

又簡易水道組合としては、空前の大事業であったが一致団結してよく此の挙を遂げた。生活改善に対し資するであろう。

尚、工事施工に対しては、特に組合長二田安正氏は、幾多の苦難をば克服し、寸暇を惜しみ、常に率先垂範、此の大事業に努力された偉大な犠牲的精神に対し、感謝して居る。

茲に記念碑建設にあたり、事業の概要を記す。

昭和三十五年十月十日

佐伯市上灘簡易水道組合

上灘簡易水道竣工記念碑の近くには、見事な上灘文化センターの建物が完成していて、人目を引きます。

時代の流れさ、ひしひしと感じさせられます。

月日は流れ、昭和四十八年頃には、海岸地方が西上浦の宮ノ内・狩生・東・風無・二栄。そして大入島の守後・高松・久保浦・竹ヶ谷。更に木立の大中尾・永野・迫。此の奥、下堅田の小島・竹角・市谷・津志河内下、小津志、上堅田の上城・谷・鶴岡の樫野等々に、簡易水道施設が完成していました。

福岡市ではつい先日まで、水不足のための給水制限が行われ、市民はあらためて"水のありがたさ"を、身にしみて感じました。

大分県でも、いつ水不足が起こって、福岡市と同じような苦しい生活に追い込まれるかわかりません。日ごろから、みんなが水を大切に、そして節約する心がけが大切です。(七月二十三日)

(注) この原稿が届いたのは今から五十日程ど前ですが、水不足・旱害は大変なことになっていて、このような備えのあった地区は、すでに備えあって憂いなしです。よい調査記録でありました。(編集子)

随想

村里の石垣とながめて

利 柴 弘

本立村の、山奥の村々を歩くと、あるいは近田に、あるいは段々畑に、見事に高く積み上げられている石垣を見かける。それは、必ずしも巨きな石を用いず、開拓の際土中から掘り出したものを、ていねいに有効に使っての高い石垣で、草一本生えさせずに、長い年月にわたって守り通したものである。

今まで藪であったところを拓いて畑とし、水がかりのよきそうな畑は更に掘りあげ、土は土、小石は小石、大きな石は岸(石垣の俗称)につもうと、それぞれ区分けしておき、岸にはちゃんと裏石をつめ、それぞれ田や畑に造成していく。水田は土をひろげる前に、水持ちをよくするために、粘土の層を敷きかためる。

それは、骨身を惜しまず働きつづけ農民の姿である。だのに村人はどうかするとその田畑を、平気で荒らしたイ形を植こんだりす。

草葉の蔭から先祖たちが、「一冬中折角骨折って畑にしたのになあ——」と、なげいているのではないか。